

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会の一員として地域の中で暮らしていることを認識して理念を作り、常に意識しながら実践につなげるように努めている。ホーム内に理念を掲げ、管理者も職員も常に確認している。	法人理念とホームの運営理念については事務所とユニット内に掲示している。合わせて月1回のケア会議の席上「基本理念」と「私たちの決意」を唱和し、共有と実践に繋げている。家族に対しては利用契約時に理念に沿った支援について説明すると同時に書面としてお渡ししている。また、支援の中で問題が発生した場合はその都度話し合い、速やかに解決するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍なので交流はあまりないが保育園へ手作りカレンダーを届けたり小学校からは折り紙のプレゼントもらっている近所の方から野菜届けてもらっている。	開設以来自治会の一員として活動を続けて来た。昨年春以降の新型コロナ感染拡大の影響を受け各種ボランティアの受け入れや全ての地域行事の中止が続く残念な状況となっているが、収束後には積極的に再開する予定である。そのような中、地域の保育園や小学校との交流活動が引き続き行われている。また、専門学校生の介護実習の受け入れが行われ、傾聴中心に利用者との交流のひと時を過ごしたという。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍なので交流が出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナのため書面で報告し感想、意見をもらってサービスの向上に活かしている。	例年であれば家族代表、地区代表、民生委員、あんしん(介護)相談員、地域包括支援センター職員、市職員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回開催している。現在は新型コロナの影響を受け書面での開催としており、活動・利用状況の報告、事故報告・ヒヤリハット報告などを書面にし、また、ホーム便りを参加メンバーに届け、FAXで意見・助言を頂き日々の支援の向上に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナのため書面で報告し感想、意見をもらってサービスの向上に活かしている。	地域包括支援センターとは入居状況等について連携を取っている。市高齢者活躍支援課とは事故報告等様々な事柄について話している。あんしん(介護)相談員の来訪も現在はコロナの影響を受け中断されているが、収束後には再開する予定である。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し、現在は職員が対応し行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族には身体拘束をしないケアに取り組んでいることを説明し、夜間転倒危険有る方にはセンサー設置の了解も得ている。ホーム内では本人の希望を聞きながら転倒予防に努めている。	方針として拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は日中開錠されている。また、南側の出入りロドアについては開閉されればブザーで知らせるよう工夫されている。帰宅願望の強い利用者があるが、散歩をしたり作品制作をしたりして対応している。平均介護度2.1と元気な方が多いので利用者毎の特徴を掴み、きめ細かな所在確認を行うことで安心、安全な支援に繋げている。安全確保のため家族と相談し夜間を中心に足元センサーを使用されている方がいる。年1回の身体拘束の研修会に合わせ月1回のケア会議の中で身体拘束適正化委員会を開き拘束に対する意識を高め、支援に当たっている。	

グループホームコスモスさいなみ

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が研修に参加している。 ケア会議の時、日頃のケアのやり方で気づいたことなどを話し合い、不適切なケアをしていないか確認しあい、高齢者虐待防止関連法についても研修に参加し理解に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は入居希望者で成年後見制度が必要と思われる方や家族に対し、出来る限りの支援や説明をしており、今後さらに学ぶ機会を増やしたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に対しては入所時の契約で詳細に説明している。改定時は、家族に書類を送付し同意のサインをいただいている。 (本年度は家族会の開催はしていない)			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には常に意見を聞くようにしている。家族には面会時に問いかけている。ご意見箱を入口に設置しており、入所時に説明もしている。 (本年度は、相談員の受け入れをしていない。)	殆どの利用者が意思表示の出来る状況にあり、好きなことお聞きし日々の支援の中に取り入れている。家族の面会は今までは窓越しでの面会と遠方の家族については電話での対応であったが首都圏の緊急事態宣言解除に合わせ現在はコロナワクチン2回接種済みの家族に限り、玄関先のベンチに腰掛けていただき10～15分の面会を行っている。また、ホームの様子は2ヶ月に1回発行されるお便り「さいなみ便り」でお知らせし、一人ひとりの様子については担当職員より行事の際の個々の写真を添え手書きの手紙でお知らせし喜ばれている。また、逆に、家族の様子や利用者の思い出の写真等を「みにみにかわらばん」として新聞を作り、ホームに届けていただく家族がいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のスタッフ会議において、日常的に職員が意見や提案を積極的に言い合える雰囲気作りをしている。また、昼休み等、個別に面談し意見や要望を聞くようにしている。また、その意見を法人に繋げている。	月1回のスタッフ会議で行事予定、新型コロナの感染予防対策、事故報告、日々の業務の中での問題点などを話し合い、身体拘束適正化委員会も開き、また、積極的に意見交換することでサービスの向上に繋げている。法人としての人事考課制度があり、目標管理シートを用い自己目標を設定し、年2回の自己評価に合わせ管理者による個人面談も行われスキルアップに繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や実績など、機会あるごとに管理者に報告し、向上心を持って働けるよう心がけている。 疲労やストレス、職員間の人間関係にも話を聞いたりしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修本人の意思や代表者が必要と思うスタッフに出来るだけ参加できるように努めている。新人職員には、力量を見ながらケアや利用者との関わり方業務面など勤務の中で細かく指導し、研修にも参加している。 (研修にはWEB研修も取り入れ工夫している。)			

グループホームコスモスさいなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は善光寺ネット連絡協議会が2ヶ月に1度あり、情報交換や勉強会など開催していたが、現在、コロナ禍で今は交流出来ていないため、コロナが終息したら以前のように交流したい。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で生活状態や生活層を把握し、家族や施設職員、ケアマネなどから情報収集して、本人の求めていることや不安を理解するようにしている。入居前お茶飲みなど馴染めるような環境作りをしている。また、職員は本人に受け入れられるよう、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族と良く話し合い、不安な事、困っている事を聞いている。家族が悩みを話せるような雰囲気、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いや状況を確認して何度も相談を繰り返す中で、担当ケアマネとも連絡をとりながら必要な支援を見極めてサービスにつなげている。 同法人のデイサービス、グループホーム、老健とも連携している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意分野を十分に発揮できるよう、料理・季節の行事など昔からの慣わし等教わりながら生活を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を電話や生活記録などで随時家族に報告しながら共に支えていく関係作りをしている。協力して頂けるようケアプランにも盛り込んでいる。また、家族同伴の行事や家族会を開き信頼関係を築いている(コロナのため家族参加せず)。ドア越し面会や遠方の方は電話でのやりとりで関係が継続出来るよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴から、本人のなじみの人や関係を知り、家族に理美容師もおりホーム内でヘアカットをお願いしている。	例年であれば、友人、知人等の来訪があるが、現在は新型コロナウイルスの影響を受け自粛の状況が続いており収束後には再開する予定である。また、年末には利用者が作成した絵手紙を年賀状として家族に発送し喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	暮らしの中で築いた人間関係を尊重し仲の良い利用者同士席を近くにしたり配慮しているが、相性や認知レベルの違いで孤立する入居者もあり、職員が常に気を配り調整役になって支援している。		

グループホームコスモスさいなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所後の様子など家族にお会いした時や職員に様子を聞いている。関係先へは生活状況等、情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者の思いを聞き取れるようにし、希望や意向を把握できるよう努めている。困難な場合は家族から話を聞いたり、ケアスタッフが生活パターンなどの把握に努め本人本位に考え検討している。	殆どの利用者が意思表示の出来る状況にあり1対1で話をする時間を大切にし意向を受け止めるよう心掛けている。本を読むことが好きな方が多く、本棚に30冊位の本を常に用意し自分で選んでいただくように働きかけている。更に、毎週日曜日に行う「プチカフェ」では当番の利用者がエプロンを掛け、コーヒー、ココア等、5種類くらい用意した飲み物メニューよりオーダーを取り、用意したお菓子と共に飲み物を他の利用者の席にお届けし楽しいひと時を過ごしている。また、日々の気づいた事柄については申し送りノートに纏め、職員は出勤時に確認し業務に入るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族も含め面談したり、訪問調査にて情報収集している。家族に生活歴を書いて頂いたり、聞き取り調査を行っている。本人との日常の会話で生活環境を聞いたり把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、本人の意思を尊重し無理せず出来ることを行って頂いている。また、本人が発する言葉や態度で気づいたことをケア記録に記入して職員が共有しケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当職員が中心となってアセスメントし、家族や本人の意向も汲み取りながら、職員全員で意見交換、モニタリング・カンファレンスを行っている。	職員は1~2名の利用者を担当し、居室管理、足りない物の補充、問題点の把握、個人別お便りの作成等を行っている。職員が評価し易いように、達成状況を1~4の数字と一言評価で表示するモニタリング表を作り、カンファレンスの中で意見を出し合い、家族の希望も面会時にお聞きし、ケアマネージャーがプラン作成を行っている。入居時は1ヶ月間様子を見て、その後3ヶ月に1回プラン見直しを行い、また、状況に変化が見られた時には随時の見直しを行い、利用者一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子、発言を出来る範囲でケア記録に記入、カンファレンスで見直しをして、利用者の個性をどう活かすのか検討している。又、夜間の様子は一覧できる申し送りに記入、翌日の日勤者・夜勤者にリレーしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅に向けて居宅事業所の紹介、老健への移動、権利擁護のための包括との連携等、本人や家族の希望により行っている。外来受診の支援、同法人内のPT・栄養士・福祉用具専門スタッフによる助言をしてもらっている。(口腔指導・服薬指導・リハビリ指導)		

グループホームコスモスさいなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練時には消防署の職員に来て頂いている。また、運営推進会議は、コロナのため文章のみ送付。隣近所のお付き合いを大切に、協力関係を築いている。ボランティア、コロナのため中止。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの希望に応じ、かかりつけ医の受診の支援を行っている。主治医が専門医受診が必要と認めた時には家族に相談し、同行が困難な時は職員が通院の同行している。	利用契約時に医療機関についての希望を聞いている。現在は全利用者が法人内クリニックの月2回の往診で対応している。また、法人の看護師の来訪が週1回あり利用者の健康管理と合わせ医師との連携が取られている。歯科については必要に応じ往診と受診で対応している。更に、配薬マニュアルを作成し誤薬がないよう配薬ケースにセットするなど、徹底を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	クリニックとの契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応を行っている。体調や些細な表情の変化を見逃さないよう早期発見に取り組んでおり、看護師に些細なことでも報告、相談できる体制作りをしている。緊急時は24時間対応できる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時は利用者の情報提供を行い入院の状態を聞いている。退院後の支援の方向性についての話し合いを本人、家族、医療機関と連携をとり、不安のないよう早期に行っている。過去に入院された方は早期退院され今も元気にホームの生活が継続されている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に『重度化の指針』を説明、同意を得ている。利用者には日々の会話の中で意向を聞いたり、家族には機会あるごとに状態を伝え、事業所の力量も理解してもらった上で最大のケアについての説明をしている。	重度化した際の指針があり利用契約時に説明し同意書にサインを頂いている。食事を摂ることが難しくなり、また、入浴時浴槽が跨げなくなった時を判断基準とし、家族、医師、看護師、ホームで話し合いの機会を持ち、その後のことについて話し合い、ホームとして出来る限りの支援に取り組んでいる。更に、法人内の老人保健施設を含めた他施設への住み替えを含めた支援にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及指導員の資格を3人が取得しており、消防署より機材を借りホーム内で職員に定期的に救命教習を開催して急変時対応できるように心がけている。(今期は講習会の実施は出来ていないが、クリニック長野と医療連携を図っている。)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼・夜間想定避難訓練を、消防署・地元消防団・ご近所の協力で年2回実施している。利用者の身体状況に応じた避難の対応方法を日頃から職員同士で話し考えている。今年9月に水防訓練を行っている。 (今期は9月に昼間想定消防訓練を行う予定だったが消防署からコロナ禍のため中止の連絡があった。)	年2回防災訓練を行っている。今年度は新型コロナの影響を受け地域住民の参加は見送り、1回は消防署の参加を頂きホーム内での訓練を行った。昼間想定訓練では火災を想定し、水消火器を使っての消火訓練、通報訓練、2階の利用者を階段を使って玄関先まで誘導しての避難訓練などを行った。また、夜間想定訓練では夜勤職員の数に合わせて避難訓練の手順の確認を行っている。合わせてLINEを用いた緊急連絡網の確認訓練も行っている。備蓄については3日分の「水」「缶詰」「レトルト食品」、「ガスコンロ」等が準備されている。	

グループホームコスモスさいなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時もまず本人の気持ちを考えてさり気ないケアを心がけたり、本人の自己決定できる声かけに気をつけている。ケア会議の時に不適切な声かけ等は話し合い改善するように努めている。	「ユマニチュード」を導入し月1回勉強会を開き、利用者一人ひとりの状況や希望に合わせた声掛けをし気持ち良く過ごしていただけるようにしている。入室の際にはノックと声掛けを忘れずに、呼び方は基本的に苗字を「さん」付けでお呼びしている。職員は年1回、法人の接遇研修に参加しプライバシーに対する意識を高め支援に当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクレーションは本人の希望を聞き個別対応をおこなったり、利用者に合わせた複数の選択肢を提供したり、自分で決める場面を作っている。本人の希望に沿えるよう個人の能力も考慮している。(週1回プチカフェで自分で好きな飲み物を注文できるようにしている。)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、散歩・生け花・花の水やり・手芸・読書・日記を書く、居室にて休むなど、一人一人の体調に合わせて、希望を聞きながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは本人の意向により決め、必要な人には職員が手伝い、定期的に来て下さる美容師さんによりヘアカットをしてもらっている。催し物がある時は、化粧品など家族に持って来てもらい、おしゃれのお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞いてメニューに取り入れている。日々の台所のお手伝いに加え、得意なことを一緒にやる機会、手作りおやき・おはぎ・季節の行事食等は利用者さんに教わりながら一緒に楽しみながら行っている。食欲が出る色等にも気を使っている。調理を利用者の前で行い匂い、音、視覚で食欲が出るよう場面づくりをしている。	殆どの利用者が自力で食事が出来る状況であり、職員と共に食卓を囲み話をしながらの食事の時間を過ごしている。献立は職員が利用者の希望も聞きながら2週間分の献立を考え、ホームの畑で栽培した野菜も使いながら調理している。昼食は利用者の希望に合わせて「麺類」の提供が多くなっている。元気な利用者が多く、野菜の下処理、食器拭き、お盆拭き等のお手伝いに参加している。また、納涼祭や敬老会には特製お弁当をテイクアウトして楽しみ、誕生日にはケーキやお寿司でお祝いをし、お彼岸には「おはぎ」を作り楽しいひと時を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス・水分量を個別に取れるよう支援している。水分量の少ない人には声かけや内容を工夫し提供している。栄養士に定期的にアドバイスを受けている。また、昼食・夕食前には口腔体操を行い、嚥下機能の維持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の力に応じた口腔ケアを行い、一日に一回は職員による全員の口腔ケアのチェックを行い、また、毎食前には手洗い・うがいをし清潔に努めている。義歯利用者は週一回以上洗浄剤を使用し清潔を保っている。定期的に歯科衛生士による歯科指導を受けそれに沿い職員が仕上げ磨きし口腔内確認している。		

グループホームコスモスさいなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状態に合せ布パンツを使用したリトイレの声をかけの工夫で排泄の支援をしている。生活のリズムの中の区切りでトイレの声をかけを個々に行っている。また、排泄チェック表を使用し尿意のない利用者には時間を見計らって誘導している。	自立している方は数名で、一部介助の方が四分の三強という状況である。排泄表を用いパターンを把握し、起床時、食事前、就寝前等の定時の声掛けと一人ひとりの状況に合わせたトイレ誘導を行いスムーズな排泄に繋げている。人前で失敗した時には周りにわからないよう優しくトイレにお連れしている。また、排便の促進を図るべく、朝の牛乳、お茶、スポーツドリンクを中心に1日1,200~1,500ccの水分摂取に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表に記録し定期的な排便を心掛けている。食事でも毎朝の牛乳・ヤクルト摂取やおやつ時のヨーグルト、野菜、食物繊維類、水分を多く摂ったり、適度な運動や散歩したりと便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の状態に合わせ、一人入浴や介助をしている。自立している方は仲間できちんとおしゃべりしたり歌ったり楽しんで入浴している。しょうぶ湯、ゆず湯等、季節の行事も取り入れている。	全利用者が何らかの介助が必要な状況となっている。週2回、入浴を行い、広くゆったりとした浴室で気の合う利用者同士が入浴を楽しめることもあるという。入浴拒否の方がいるが誘い方に工夫をして入浴できるようにしている。また、入浴剤を使用したり、季節により「ゆず湯」「菖蒲湯」等で季節感を味わえるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体を使っての(運動)レクリエーションや散歩等で日中を過ごし、昼食後は体を休めてもらっている。昼寝の出来ない方には、フロアにて職員と会話したり一緒にパズルゲームを楽しみを提供している、夕食後からは就寝へ向けての環境作りを心掛け、温かい飲み物やゆづり話を聞いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を各利用者のチャートにはさみ職員が入居者一人ひとりの内服している薬を把握できるようにしている。服薬時には声掛けし直接口内服して頂き、内服の確認も行っている。処方の変更があった時には申し送りで周知し状態観察をしている。薬剤師による服薬指導で指導、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理・裁縫・編物・畑仕事などの得意分野で力を発揮できるように場面作りをしている。季節の行事を企画し参加して頂いている。外出の希望でドライブ、散歩にて気分転換している。お茶には本人の希望でコーヒー、紅茶も提供している。お誕生日には希望献立やケーキでお祝いしている。プチカフェで役割を決め利用者様が注文を取るなど喫茶店のような運営をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は近くの公園へ散歩や、また、今期はコロナのため家族との外出は出来ませんが、利用者の希望に応じてドライブを行ったり、コスモス内の公園に散歩をしている。	外出時、自力歩行の方が半数、杖使用、歩行器使用、車いす使用の方がそれぞれ数名ずつとなっている。新型コロナ禍が続き外出が難しい状況となっているが、天気の良い日には複合施設の敷地内や近くの公園まで散歩し季節の移ろいを楽しんでいる。コロナの感染も落ち着いて来たので感染対策を行ったうえで「紅葉見物」等のドライブに出掛ける予定でいる。	

グループホームコスモスさいなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用様の希望のものを家族に電話し購入している。 施設内のお金の所持は、紛失される可能性があるため基本的に控えているが、不安を訴える利用様は御家族様と相談し所持・管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵手紙など利用様に一筆を加えて送ったり、利用者への手紙や写真のやりとり、電話の取次ぎ・代筆等も支援している。希望に応じて自分で家族に電話をしたり、手紙を書いて出したりしている。個人で携帯を持っている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房や湿度には常に気を使って温度変化や乾燥に気を配っている。フロアーには外出時・行事の写真を展示、レクリエーションで作った季節の装飾品で利用者への話題を提供している。玄関前、南ベランダでお茶やレクリエーションができるよう空間を作っている。	十分な広さが確保された共用部分には3ヶ所の食事テーブルが設置され、食事や体操、作品の制作等で一日の大半をゆったりと過ごしている。壁には利用者自身が制作した数多くの作品や年頭に書いた「書初め」、日常の様子を写した写真等が飾られ、ホームでの生活の様子を窺うことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの近くや廊下、玄関先にソファやベンチを置き一人で過ごしたり、仲の良い人同士で話ができる空間作りをしている。フロアーには生活の中の様子が解る写真や作品を飾り会話が弾むように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた寝具やタンスなど持ち込む事によって居心地良く過ごしてもらえるように家族に説明し配慮して頂いている。居室に家族の写真や手作りカレンダーを飾ったりしている。また、仏壇やテレビを持ち込まれている方もおり居心地よく過ごせる工夫をしている。	整理整頓が行き届いた各居室には洗面台が設置され暮らし易い造りとなっている。持ち込みは自由で家族と相談し使い慣れた家具、テレビ、仏壇等が持ち込まれ壁には家族の写真や自分の作品が飾られ、思い思いの生活のスペースが作られている。また、お気に入りのぬいぐるみをベッドの上に置いている居室もあり、微笑ましく感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名札を貼って迷わないように工夫したり、トイレや浴室などわかりやすい表示をしている。自立して生活ができるように物の配置には気を配っている。また、利用者の状態変化に伴い物の配置などに配慮し安全な環境作りに努めている。		